

令和6年度東京都サービス管理責任者等研修検討会 活動報告

概要

サービス管理責任者研修及び児童発達支援管理責任者研修（以下「サービス管理責任者等研修」という。）を円滑かつ効果的に行えるよう、研修カリキュラム等について検討する。

【活動方針】

- ・「東京都のサービス提供事業所において障害児者の豊かな生活の実現に向けて取り組む現場のリーダーの姿 Ver.5」に基づき、研修内容を検討する。
- ・基礎研修、実践研修、更新研修で使用する教材のブラッシュアップを図るとともに、研修全体を見渡し、つながりを意識した研修プログラムを作成する。
- ・各研修ファシリテーター（以下、FT という）説明会の内容を検討する。
- ・令和6年度から更新研修に新たに追加されるスーパービジョン（以下、SV という）のプログラムを作成・実施する。
- ・質の高い研修を継続して実施するため、次期講師の育成と講師間の関係づくりを目的としたサービス管理責任者等研修演習指導者養成研修を実施する。

【委員構成】

		氏名	所属
1	副委員長	会田 真一	社会福祉法人ひらイルミナル
2		岡田 哲也	社会福祉法人雲柱社
3		小出 由貴子	社会福祉法人友愛十字会
4		相良 宏司	社会福祉法人東京援護協会
5		清水 謙一	社会福祉法人まちだ育成会
6		丹澤 和美	社会福祉法人草むら
7	委員長	妹尾 和美	明星大学
8		徳武 孝	社会福祉法人足立邦栄会
9	副委員長	橋爪 亮乃	社会福祉法人さくらの園
10		樋口 勝	社会福祉法人本郷の森
11		皆川 直美	社会福祉法人からしだね
12	副委員長	宮田 理恵	特定非営利活動法人めぶき
13		横山 美紀	社会福祉法人府中市社会福祉協議会
14		吉田 遊佑	社会福祉法人イリアンソス
15		渡辺 哲男	社会福祉法人調布市社会福祉事業団

【各研修の検討体制】 ◎印：チームリーダー

検討チーム	委員
基礎研修	◎橋爪、岡田、相良、横山、吉田
実践研修	◎宮田、小出、樋口、渡辺、清水
更新研修	◎会田、丹澤、徳武、皆川
演習指導者養成研修	岡田、相良

【活動状況】

	日程	検討事項
第1回	5月30日	委員長・副委員長選出 年間研修実施計画について 年間活動方針案及び計画案について 各研修検討チーム活動スケジュールについて つながりを意識した研修プログラムの作成について
第2回	8月8日	各研修検討チーム活動スケジュールについて 研修全体をつなぐ意識した研修プログラムの作成
第3回	11月8日	令和6年度サービス管理責任者等指導者養成研修会受講報告 各研修プログラムの検討 研修全体をつなぐ意識した研修プログラムの作成
第4回	3月11日	年間のまとめ及び次年度への引継ぎ事項

・年4回の検討会以外に、各チームとも対面式やオンラインでの打合せを行った。

活動成果

【活動成果1 研修プログラムの検討と教材作成】

- ・研修の教室進行、FTを対象に、FT説明会を実施し、研修の内容と研修におけるファシリテーションのポイントを伝えた。更新研修については、初めて行うSV演習のための説明会を別で設けた。また研修後には振り返り会を実施し、次年度の教材作成に向けて情報収集を行った。
- ・基礎研修と実践研修は演習の順番変更を行い、更新研修についてはSV演習が新たに追加となった。そのことを踏まえ、各研修にて教材作成を行った。

○基礎研修

- ・昨年度のまとめを踏まえ、演習の順番変更、資料内の言葉の整理や説明、また制度改正の内容を反映させ、受講者の理解が進む内容となるようブラッシュアップを図った。

- ・FT説明会にて演習指導者向けに「演習運営上の役割分担」を文章化し、整理を行った
- ・演習指導者の外部講師に基礎研修を見学していただき、基礎研修検討委員向けにファシリテーションの視点からの資料提供があった。
- ・次年度に向けて「演習資料に連動した講義資料となっているか」を中心に見直しを図るとして方向性を定め、検討に着手している。

○実践研修

- ・昨年度のまとめを踏まえ、演習の順番変更、言葉の整理や説明など修正を行い、受講者の理解を深めることを目的とした資料作成が行われた。
- ・FT 説明会にあたって、昨年度からの変更点を一覧にしてまとめ、当日の説明を行った。

○更新研修

- ・SV 演習の7時間分をプラスしたプログラム作成に当たって、演習は1日で実施し、演習の一部を事前と事後の動画配信で実施した。
- ・SV 演習のプログラムや資料は打ち合わせを重ね、SV 演習のベースを作った。
- ・SV 演習は初めてだったため、通常のFT 説明会と別にSV 説明会を行った。そのための資料準備などの負担はあったが、説明会を経たことで事前に受講者配布用の資料修正を行えた。
- ・今年度の振り返りを行い、次年度は演習の順番変更や用語解説などに取り組むことを決めた。

○専門コース別研修

- ・今年度も障害児支援をテーマとして、昨年度と同内容のプログラムにて、動画配信により2回実施した。
- ・次年度は相談支援従事者研修検討委員と合同で資料作成を行うこととなった。

○演習指導者養成研修

- ・研修受講者の増加を踏まえ、今年度は2回に分けて実施。受講者の事後アンケートにおいて、概ね参加して良かったとの評価をいただいていた。
- ・外部講師が基礎研修を見学してくださり、それを踏まえ、基礎研修検討委員に向けたアドバイスとして資料を提供していただいた。

【活動成果2 講師の養成】

- ・今年度は所管部署からも関係団体・都施設等に広く推薦を依頼のうえ募集した結果、修了者が前年度比で約7倍の数となり飛躍的に増えた。

- ・各研修の実施前にファシリテーターへの説明会、研修後に振り返り会を実施した。更新研修前に全登録 FT を対象に SV 説明会を実施した。
- ・各研修の教室進行を教材作成に関与している検討会委員が担うことで経験の浅い FT の相談に応じたり、タイミングよく助言することができた。

【活動成果3 つながりを意識した研修プログラムについての検討】

検討委員が各研修で MF・FT を担っていただいたこと、また検討会で、つながりを意識したプログラム作成を課題としてご意見をいただいていたこともあり、各研修にて、よりつながりを意識した内容の検討と資料への反映を行った。

【活動成果4 サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者指導者養成研修への参加】

令和6年9月11日から13日に開催され、基礎研修、更新研修、実践研修に検討会員3名、意思決定支援、障害児支援の2つの専門コース別研修に相談支援従事者研修検討会委員2名が参加した。受講の報告を第3回検討会で行った。また、研修で得た情報を研修プログラムに反映した。

【活動成果5 その他】

基礎研修、実践研修、更新研修、専門コース別研修事業の受託者が、オブザーバーとして検討会に出席。各研修の実施状況等について報告するとともに、検討会での検討結果を踏まえて各研修を実施した。

次年度の取り組み

基礎研修	<ul style="list-style-type: none"> ・検討会の場を、実践研修へのつなぎ方等の研修間の調整に有効に活用する。ニーズの捉え方の微妙な違い等、お互いの研修のことがわかるようになってきたので、つながりのある研修づくりに取り組む。 ・演習指導者養成研修の在り方について、演習指導者養成研修チームだけに任せるのではなく、基礎研修検討チームとしても検討する。 ・受講者が、基礎研修の柱の一つである支援プロセスの一つ一つの理解が深まる工夫をする。特にアセスメントについては、実質的な理解が得られるような教材づくりに取り組む。 ・講義と演習がよりつながる組み立てを検討する。演習ファシリテーターが講義内容を把握したうえで演習に臨めるようにする。
実践研修	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎研修と内容が重なるところがあるため、実践研修のねらい（助言指導を行うことに重点）を明確に出していけるようにする。 ・演習の順番変更（OJTの振り返り⇒事例検討会⇒アセスメント⇒個別支援会議）を行い、演習間の連動が図れるようにする。そのためプログラムの時間調整について検討する。 ・全体を通して会議が3つあるため、個別支援会議の事前会議は事例検討会の中で扱うことにするよう整理を行う。 ・個別支援計画の再作成のワークにおいて、サビ管・児発管としての役割（意見を引き出すなど）をメインにするか、計画の質を高めることに重きを置くか検討する。
更新研修	<ul style="list-style-type: none"> ・講義動画（関係機関との連携の実践報告）と演習のデモ動画の再撮影を検討する。 ・プログラムの建付け（事前・事後動画、演習など）は変更しないが、演習の順番を入れ替える。 ・演習の最初に、「サビ管・児発管としての自己検証」を持ってきて、その中に自己紹介とアイスブレイクを入れるようにする。 ・スーパービジョン（SV）については、職員へのSVを行ってから、事例検討のSVの順で行う。その際はグループワークではなく、教室全体で行うことにする。